

平成 31 年度 事業計画

1 基本方針

伊勢志摩地域の自然、歴史、文化、食等の分野における高いポテンシャルを生かし、国内外からの誘客、周遊・滞在を促進し、観光事業の健全な発展や振興、地域の活性化を図っていきます。

平成 31 年度以降の伊勢志摩地域の目指す方向を示す新しい「伊勢志摩観光振興プラン」に沿って、全国的に激化する観光情勢において伊勢志摩地域が埋もれることなく、“伊勢志摩ファン”を増やしていくため、広域のスケールメリットを生かし一体となって、伊勢志摩経済圏の活性化、持続可能な観光地域づくりを目指した取組を進めていきます。

国内誘客においては、引き続き消費者の傾向を的確に掴み、改元による動き等にも合わせ、ターゲットに効果的に訴求する発信やプロモーションの展開に加え、重要で確実なマーケットとして中部圏や関西圏からの誘客を促進する取組も実施していきます。

海外誘客においては、当機構の重要なパートナーである様々な地域の事業者や団体と連携し、多様な業種を包括した伊勢志摩地域が一体となった取組を進めていきます。平成 31 年度はインバウンド事業本格実施の初年度として、現状を分析したうえで、メインターゲットを欧米豪と位置づけた広域的な取組を展開していきます。世界中から多くの観光客が訪れることで、地域経済の活性化が進むのみでなく、当地域にレベルアップをもたらしていくように努めます。

また、クルーズ船の寄港も国内外を問わず伊勢志摩ファン獲得に向けた絶好の機会ととらえ、さらなる寄港の誘致や、寄港に伴う地域内での周遊促進、受入環境やおもてなしの充実を図ることで、伊勢志摩ファン獲得のきっかけとします。

以上の取組の充実を可能とするべく、おもてなしの向上、安全・安心の実現、バリアフリー対応の推進等を実現しながら、事業の質、専門性及び継続性の向上をめざして専務理事を配置した組織体制のもと、充実した事業とそれを支える体制の維持向上を図り、日本版 DMO 法人登録（地域連携 DMO）を進めていきます。

2 伊勢志摩地域の経済が活性化することを目的として行う観光振興事業

(1) 観光情報の発信事業

8,322 千円

行政区域の枠を超えた広域のスケールメリットを活かした効果的な情報発信を図り、継続的な誘客促進に寄与するため、以下の事業に取り組みます。

① インターネットによる情報発信

当機構ホームページ「伊勢志摩観光ナビ」（以下：機構 HP）や SNS など、インターネットを活用した効果的な情報発信を行います。

機構 HP は、年間アクセス数が約 600 万ページビューあり、三重県外からの閲覧が約 9 割を超えている伊勢志摩地域最大級の観光情報サイトで、伊勢志摩訪問を検討する多くの方に閲覧されています。

現在の機構 HP は、平成 32(2020)年度までの契約のため、平成 31 年度については大規模な改修は実施せず、特集・モデルコース・観光スポットなどコンテンツの充実に努めるとともに、継続利用も選択肢に含めた平成 33(2021)年度以降の方針を検討します。

また、機構 HP を活用した財源確保の取組として、旅の予約ページから予約・宿泊された件数や金額に応じて報酬を得ており、平成 31 年度は、特集ページへの有料記事掲載など新たな財源の確保にも取り組む予定です。

		平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (見込)	平成 31 年度 (目標)
ホームページ アクセス数 ※	年間	約 622 万 ページビュー	約 600 万 ページビュー	約 630 万 ページビュー
		約 193 万 セッション	約 205 万 セッション	約 215 万 セッション
	年末年始 (12/28～ 1/3)	119,583 ページビュー	98,331 ページビュー	約 120,000 ページビュー
フォトギャラリー 画像請求件数		約 1,881 件 (月約 160 件)	約 2,100 件 (月約 175 件)	約 2,300 件 (月約 190 件)
フェイスブックページ 「いいね」数		約 10,700	約 11,000	約 11,500
ツイッター フォロワー数		約 3,850	約 3,950	約 4,100
インスタグラム フォロワー数		約 700	約 1,400	約 2,000
宿泊予約 サイト	宿泊実績	553 件	約 530 件	約 600 件
	手数料収入	150,161 円	約 125,000 円	約 160,000 円

※セッション

サイト訪問者数。一度の訪問における 30 分以内の行動が 1 セッション。サイトを離脱しても 30 分以内に再来訪した場合は同一セッション、同一ユーザーでも 30 分以降の再来訪は別セッション。

※ページビュー

閲覧されたページ数。WEB ページが 1 ページ表示されると 1 ページビュー。

②メディアによる情報発信

三重テレビ放送「ええじゃないか。」において、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町のイベントや観光情報、グルメなど、伊勢志摩地域の特徴を生かした番組を制作・放送します。

テーマ性のある企画でより深く、より地元に着目した旬な情報を視聴者に提供することで、リピーターの獲得及び伊勢志摩全体の知名度の向上を図ります。

なお、当番組は、三重テレビ放送他 9 局で放送され、全国世帯の約 56% をカバーしており、特に当地域への来訪者が多い中部圏と関西圏については約 90% の世帯をカバーしています。さらに、番組情報を新聞や情報誌で PR していることから、効果的な情報発信及び誘客促進が期待できます。

また、複数の地域を周遊する 2 週連続の特別回を設け、より実際の旅行に近づけた番組制作を行います。一度に伊勢志摩地域を周遊した番組制作により、それぞれを近くに感じさせ、より広域周遊につなげていくことを目指します。

③パンフレット等による情報発信

「伊勢志摩観光ガイドブック『美し国伊勢志摩』（日本語版、英語版、中国語版、韓国語版）」を中心とした、紙媒体での情報発信を実施します。

伊勢志摩観光ガイドブック『美し国伊勢志摩』は、伊勢志摩管内の観光案内所や宿泊施設のほか、三重テラスやセントレアなど県外施設でも配布されており、伊勢志摩地域を網羅したガイドブックとして広く活用されています。

しかし、当ガイドブックは、約 10 年前に作成したものを基に時点修正しており、近年オープンした施設や流行を大きく掲載できていないことから、伊勢志摩観光振興プランの改訂に合わせ、ガイドブックのデザイン・内容を刷新します。なお、平成 31 年度は、デザインのみを行い、印刷・配布は次年度からを予定しています。

(2) 観光客及びコンベンションの誘致促進及び受入体制の整備に関する事業

42,354 千円

伊勢志摩地域への国内外からの観光入込客増大を図るため、地域が一体となって観光客や MICE 等の誘致を行います。具体的には以下の事業に取り組みます。

①インバウンド推進事業

観光により地域を活性化させるためには、国内マーケットだけでなく海外からの誘客にも力を入れることが重要です。

海外からの誘客は、ターゲット国ごとの観光客の状況を把握・分析したうえで、地域が一体となりプロモーションすることが効率的であると考え、広域かつ、様々な業種の会員で構成されている当機構が中心となり、地域や業種を包括した取組を進めていきます。

強化した組織体制のもと、「伊勢志摩観光振興プラン」の魅力の 4 本柱である「神宮、食、伊勢志摩国立公園、海女文化」を生かし、欧米豪をメインターゲットに情報発信することに加え、的確に市場を選択しプロモーションを実施します。また、伊勢志摩鳥羽インバウンド協議会が築いてきたノウハウやつながりを引き継ぎ、取組を磨き上げていきます。

平成 31 年度は、特に欧米豪を中心に伊勢志摩地域の魅力を伝える動画を活用し、空港や駅等の交通結節点でのプロモーションを行うとともに、アジア圏についてもターゲットの一つとして確実に誘客を狙います。

また、外国人受入支援として、外国人観光客が快適に旅行できるよう、観光情報の多言語化と充実、アクセスや地域内の交通手段等の一体的な提供等に向けた取組を進めるとともに、地域の事業者の受入技術の向上を図るなどの人材育成にも取り組みます。

さらに、伊勢志摩国立公園のナショナルパーク化に向け、自然と人の営みが調和した魅力あるコンテンツを磨き上げて発信し、外国人を魅了することで、誘客につなげます。

これらの取組を進めるとともに、外国人観光客に関するデータや傾向を把握し、取組効果の検証、施策の立案に生かし、戦略的な誘客を図ります。

②伊勢志摩情報発信プロモーション事業

旅行者の消費傾向が「モノ消費」から「コト消費」へと変換し、旅行者のライフスタイルに寄り添う伊勢志摩になるため、「神宮」のキラーコンテンツに頼るだけでなく、魅力のイメージに転換し、常に新しい伊勢志摩として、旅行者が求める観光地であるということをしっかりと伝えるコミュニケーションを実現するための情報整備

と正確なプロモーション展開を実施します。

主なプロモーション展開として、平成 30 年度に引き続き伊勢志摩ならではの観光資源を再発掘する「伊勢志摩イメージチェンジ」と、長期ステイを促す「長期滞在促進リゾートステイ」を目標に、旅行者へ視覚的にイメージを伝えるため、ブランドの持つコアなファンを囲い込んで伊勢志摩でのオリジナル事業を展開するターゲットを絞った体験レビューを元にした雑誌・WEB・イベントとタイアップしてターゲットに効果的に訴求する体験訴求型プロモーションを実施します。平成 29 年度からのステップアップとして継続実施による魅力創出による浸透、宿泊を重点的に誘客促進に取り組み、3 カ年事業の最終年度として認知度向上に合わせて理解度向上との差を把握し、現状把握できるよう取り組みます。

特に首都圏に関しては、「伊勢志摩アンバサダー」を活用して三重県の情報発信及び営業拠点である「三重テラス」等で伊勢志摩アンバサダーのネットワークを最大限活用して発信力のある方や同世代旅行消費者へ伊勢志摩への旅行促進に繋がるよう努めます。

また、例年東京開催されている「ツーリズム EXPO ジャパン」が平成 31 年度には大阪開催となりますが、イベントブランドを活かして、官民が連携して統一コンセプトを持ったプロモーション展開を実施します。

さらには、三重県及び各市町の事業と連携させることで露出度を向上させ、より効果的に伊勢志摩へ誘客促進させることで、旅行エージェントやネットエージェント及び WEB 媒体とのタイアップによる実送客数増加を狙います。

平成 31 年度は、新たに北海道だけでなく、福岡を起点とした九州からの誘客促進を強化させるため、三重県と連携して各エリアの特徴に合わせた取り組みとして旅行博への出展や、旅行商品造成、各種メディアでの情報発信等を三重県、伊勢市、鳥羽市、志摩市の事業連携により実施し、航空路線をターゲットにして、マーケットのメインである札幌・福岡に重点を置き、各空港から中部国際空港へと誘導して伊勢志摩への誘客促進に取り組みます。

各種の事業展開により送客された企業が持つ実績データを分析検証し、市場での流行を先読みした投資的ビジョンを策定する根拠として活用し、3 カ年の事業成果を活用して平成 32(2020)年度以降の事業展開を検討します。

③VISIT 伊勢志摩事業

本事業は、伊勢志摩の魅力あるコンテンツとして、神宮や食を活用しながら、伊勢志摩における温泉のイメージ付けを図る情報発信と併せて、誘客につながる効果的な事業（商品造成、プロモーション等）を宿泊者数が低調な時期に実施するものです。

平成 31 年度についても、前年度に引き続き、行政、鉄道会社等と連携して、将来の伊勢志摩ファンとなることが期待でき、当地域の重要で確実なマーケットである、関西圏・中部圏の若者や女性をターゲットに伊勢志摩広域でプロモーションし、誘客促進を図ります。

また、宿泊してこそ味わえる朝から夜の幅広い時間軸における魅力の発信、周遊性向上により宿泊日数の増加につなげます。

さらに、事業の実施に当たっては成果指標を設定したうえで、その結果を検証します。

④クルーズ船誘致及びおもてなし事業

クルーズ船寄港への対応として、おもてなしや伊勢志摩の発信（周遊マップ、ホームページ等）を行うことで、地域内周遊につなげ、消費拡大やリピーター獲得をもたらす、地域経済活性化につなげる機会とします。

鳥羽港クルーズ船誘致受入協議会に参画し同協議会と連携しながら、伊勢志摩の発信やツアー造成等による乗船客の周遊促進に加え、事前寄港地でも乗船客に伊勢志摩を発信し、伊勢志摩への期待感を醸成します。

また、受入実績を積み上げ、寄港地として選ばれるための魅力と認知度の向上を図り、寄港機会の増加に向けたセールスを展開します。

⑤MICE 誘致事業

MICE 開催の誘致、強化のため、「伊勢志摩リゾート MICE 推進協議会」のもと地域が一体となった誘致活動を推進し、さらなる情報発信、情報収集に努めます。

また、三重県が支援する国際会議にも重複して交付する助成金制度、各種提供物や会議の割引等の企画商品、MICE クーポンなど、開催支援サービスの強化により、伊勢志摩での開催を誘致していきます。

さらに、地域内各市町の支援制度の把握、分析等を行い、支援のあり方について検証します。

⑥国内誘客促進事業

伊勢志摩地域の魅力を広く発信・PR しつつ、首都圏・中部圏・関西圏の各地域からの需要喚起や誘客促進を図るため、各種誘致活動を実施します。

外部の観光産業関係者などが開催する研修会への参加及び意見交換、プロモーションを実施し、各方面へ「伊勢志摩」の露出を図ります。

また、観光産業の市場動向に応じた事業展開を実施するため、観光業者及び旅行会社などとネットワークを形成し連絡調整を図ります。

(3) 伊勢志摩フィルムコミッション事業

414 千円

映画、TV、CM 等の各種映像を通し、伊勢志摩地域の魅力を発信することにより、当地域の魅力の再発見や知名度、イメージの向上を図るため、積極的な撮影の誘致を行います。

また、制作会社からのロケ候補地等の問い合わせ対応、候補地の下見への同行などの支援、エキストラスタッフの派遣協力、県内の他フィルムコミッションとの連携を強化するなど、支援体制の強化を図ります。

さらに、伊勢志摩地域でのフィルムコミッション事業を円滑に進めるため、伊勢志摩フィルムコミッション事業推進委員会を軸としたオール伊勢志摩体制で支援の強化と機能性の充実を図ります。これにより、撮影可能な場所やシチュエーションを拡大し、伊勢志摩の露出増加を図ります。

また、誘致した伊勢志摩をメイン舞台とした映画を活用することで、映画ファンの広域周遊観光につなげることや、地元で映画撮影が行われていることによる地域への誇りや愛着心を育てること、文化レベルの高い映画の創作活動に触れることで地域文化の振興を図ります。

(4) 観光情報の調査研究及び観光客の満足度向上に関する事業

652 千円

伊勢志摩地域の観光を戦略的、効果的に推進するための舵取り役を果たすことと、観光客の満足度向上を目的に、新しい伊勢志摩観光振興プランに基づいた、観光客の実態・傾向の調査やデータの収集を実施し、プラン達成状況の検証や施策の立案に活用します。

また、日本版 DMO 法人登録を進めるうえで必要な KPI (※1) の設定、PDCA サイクル (※2) による事業の改善・効率化などにも取り組みます。

なお、調査結果やプランの達成状況は会員と情報共有し、今後の広域観光施策立案のための基礎資料としても活用します。

※1 KPI

Key Performance Indicator の略語。定められた最終目標の達成に向かって事業が順調に進んでいるかどうかを点検するための重要な指標。日本語では「重要業績評価指標」などと訳される。

※2 PDCA サイクル

PDCA は、Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)の略語。これらの4段階を繰り返すことで、業務を継続的に改善し円滑に進めていく考え方。

(5) 観光産業及び観光文化の振興と人材の育成に関する事業 **150 千円**

伊勢志摩地域が一体となった集客交流が円滑に進む体制を整備し、地域の観光産業の振興を図ります。また、地域の観光事業者やおもてなしに関心を持つ方等を対象に、食や伝統、歴史、文化等についての基礎知識やおもてなし対応を習得できる機会を造成するため、おもてなしセミナーを開催します。

(6) 伊勢志摩学生団体誘致委員会事業（特別会計） **3,481 千円**

平日の安定的な宿泊施設の稼働と集客を維持できる教育旅行を、国内中心に海外からの誘致も視野に入れ、宿泊施設・観光施設・観光団体等で組織する「伊勢志摩学生団体誘致委員会」の活動を継続して展開していきます。

「～自然・歴史・文化から学ぶ～ 美し国・環境学習」を学習テーマの主軸として、伊勢志摩固有の歴史・文化・伝統・産業や国立公園内の自然を生かし、各種観光施設を組合せた教育旅行の提案と情報発信、各種プロモーションを実施し、修学旅行の枠組だけでなく、児童・生徒・学生の将来の職業選択肢を広げられるような体験学習、スポーツ合宿や大学のゼミ旅行等、幅広く教育に係る旅行の誘致にもつなげていきます。

企画立案事業では、平成29年度に改訂された学習指導要領の「知・徳・体にわたる『生きる力』」を育み、自然の中での集団宿泊体験や現場体験を重視し、能動的な学修や社会情勢を踏まえた、伊勢志摩ならではの教育旅行の提案やプログラムづくり等に取り組み、伊勢志摩でしかできない体験を通じた学習要素を強め、他地域教育旅行との差別化を図ります。

誘致宣伝事業では、全国の学校や、旅行会社等を対象として情報発信及び訪問セールス等の誘致活動を実施します。

また、平成31年度も伊勢志摩現地招聘事業を実施し、教育関係団体や旅行会社営業担当者に伊勢志摩の魅力を実感してもらい、関係性を強めることで伊勢志摩が旅行先として少しでも多く選定されるよう認知度強化に努めます。

これらに加え、この地域への教育旅行の受入状況を宿泊・観光施設から聴き取り調査等により実状を把握し、効果的に誘致活動できる仕組みの構築に取り組みます。併せて、全国修学旅行研究協会、日本修学旅行協会及び、あおぞら号近畿地区運営協議会等、関係団体との情報交換・収集を行い、マーケティングに反映していきます。

さらには、訪日教育旅行の誘致活動も視野に入れ、三重県及び各市町の教育委員会との情報交換・収集に努め、誘致できる仕組みを構築できるよう取り組んでいきます。

(7) 伊勢志摩キャンペーン事業（特別会計事業）

「VISIT 伊勢志摩事業」により、宿泊客数が低調な時期に対策期間を絞り込み、宿泊者数の増加につなげるための効果的な取組を行うことから、当該事業は休止中です。

3 管理部門

(1) 組織体制の強化

① 事務局体制

伊勢志摩地域の広域観光を十分に担うため、行政、関係団体、事業者等と連携し、伊勢志摩地域の観光振興を推進する体制を構築し、組織強化を進めていきます。

また、平成 30 年度に専務理事、インバウンドを主に担当する正規職員を配置したことにより強化した体制のもと、日本版 DMO 法人登録に向けて取り組みます。

■ 事務局職員（14 名）の内訳

専務理事 1 名

正規職員 1 名

臨時職員 2 名

伊勢市からの派遣職員 2 名

鳥羽市からの派遣職員 2 名

志摩市からの派遣職員 2 名

南伊勢町からの派遣職員 1 名

三重県職員（観光魅力創造課 伊勢市駐在） 1 名

三重交通(株)からの派遣職員 1 名

(株)近畿日本ツーリスト中部からの派遣職員 1 名

② 会員の拡大

行政区域の枠を越えた伊勢志摩広域で、官民が一体となった観光振興事業の展開及び推進を図るため、会員相互及び事務局で新規会員の積極的な確保に努めます。さらに会員になることのインセンティブの充実を図ります。

③ 会員への情報提供

様々な関係者と連携した取組を進めるため、地域とのつながりの強化やコミュニケーションを図っていきます。会員向けに情報を提供する機会や会員間の情報交換の機会を創出します。

平成 31 年度 資金調達及び設備投資の見込みについて

1 資金調達の見込みについて

借入れの予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業区分	借入先	金額		用途	

2 設備投資の見込みについて

設備投資の予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業区分	設備投資の内容	支出又は収入の予定額		資金調達の方法	

平成 31 年度 別途会費又は負担金の額

当機構会費規程第 5 条第 1 項に規定する、平成 31 年度における別途会費又は負担金の額は次のとおりとする。

1 伊勢志摩学生団体誘致委員会事業 特別会計負担金

(1) 学誘特別委員 15 委員

委員名	負担金額	委員名	負担金額
三重県	300 千円	南伊勢町観光協会	30 千円
伊勢市	600 千円	伊勢商工会議所	30 千円
鳥羽市	600 千円	鳥羽商工会議所	30 千円
志摩市	600 千円	志摩市商工会	30 千円
南伊勢町	300 千円	南伊勢町商工会	30 千円
公益社団法人 伊勢市観光協会	30 千円	鳥羽旅館事業協同組合	30 千円
一般社団法人 鳥羽市観光協会	30 千円	答志島旅館組合	30 千円
一般社団法人 志摩市観光協会	30 千円		

(2) 学誘委員 一律 30 千円×26 委員

※平成 31 年 2 月現在、平成 31(2019)年 5 月 1 日以降の元号が未公表のため、同日以降の日付及び年については、平成と西暦を併記しております。

例:平成 32(2020)年